

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	縁どうまめ		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2025年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士や保育士等、有職者が多く在籍しており、個々の特性に応じた発達課題を示し支援を行っています。	集団活動で成功体験を通じてお子様自身の自己肯定感を高められるよう支援を行っています。	日々の活動が固定化されないように職員間でフォローやアドバースを行い活動内容を充実させていきたいと思ひます。
2	食育活動が充実しており、今まで食べることでできなかった食材を自分で食べることが出来るようになったお子様が実際に複数名いらっしゃいます。	調理レクや栽培活動のなかで多くの食材に触れる機会を作り食の幅を広げる支援を行っている。	調理や配膳で参加を促しているが、感染症もあり、一部活動の幅が狭まってきています。 感染対策を行いながらも参加できる活動には多くお子様たちに実際に体験できるよう活動の提案を探っていきます。
3	イベントの充実。毎年10月31日に地域のお子様も参加できるハロウィンイベントを行っております。昨年は200名ほどの方に来ていただき、「楽しかった」「怖かった」「また来たい」と嬉しいお言葉を頂戴しています。	普段関わることの少ない地域の方と交流することで、子供たちの社会性や挨拶などのマナーを学ぶ実践の場となっています。継続的な実施により、事業所と地域との関係性も深まり、地域に開かれた運営に繋がっています。	現在は個別参加形式が中心となっており子供同士の直接的な交流が少ない為、装飾づくりや役割分担を取り入れ、事業所のご利用者様と地域のお子様の関わりが促進されるよう改善を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援が個別対応に限られている。 保護者同士の交流の機会が少なく、悩みや使っているサポートの共有などを行うことができれば保護者様の安心感にも繋がるかと考える。	事業所が児童発達支援と放課後等デイサービスの2事業所を運営している為、常にお子様の支援や送迎を行っている状態となり、場所や職員の調整が難しい。	時間を固定して研修など行うことは現状難しいため、まずはフリー参観日など普段の活動場面を見学していただく機会を検討。面談時には積極的に活動の様子を見ていただけるよう声をかけていく。
2			
3			

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	縁どうまめ		公表日		2026/2/27	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	定員10名の範囲内で運営している。パーティション等を使い、室内環境やスペースにも変化をつけて活動している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	利用児童数に合わせた人員配置を行っている。近隣の系列事業所との連携体制も整っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	イラストや文字を使った視覚情報指示による、身支度の自立化を目指している。1日の流れも貼り出すことで見通しを持てる環境づくりを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	毎日の清掃を欠かさず行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	パーティションを使用し室内でも空間を分けて使用している。	部屋数は足りているが、イベント準備などで使用できない期間がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	0	毎月の目標の提示と振り返りを必ず行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	毎年欠かさず行っている。内容についても、職員間で共有し改善に向けた話し合いを行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	毎朝のミーティングで行っている。また、細かな事でも話し合える環境が整っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	8	外部からの訪問は必要であれば随時受け入れを行っている。	事業所への評価をいただく機会は少ない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	7	新人研修、動画を使用した研修が行われている。	業務時間内に研修内容を行うことが難しく、内容について周知されづらい体制となっている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	職員全体で支援内容について話し合いを行い、プログラムを作成・公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	児発管だけでなく、普段支援に関わっている職員の評価や観察についても取り入れて作成を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	保護者様の思いを基に他職員からの意見を聞きながら作成している。	送迎などによる時間の制限があり、職員間での会議では十分な時間を設定できない場面がある。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	個別支援計画は、職員であればすぐに確認できる場所に保管し、必要な時に確認ができる。面談の際には複数職員が参加を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0	行動観察や考察について職員間で話し合う機会を設定出来ている。	標準化されたツールの使用は評価時間がネックとなり行えていない。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	全ての個別支援計画に記載できるよう作成を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	基本的にはその日の担当の職員が強みを活かす活動を計画を行うが、周囲の職員が内容の提案やフォローを行える体制が整っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	日ごとに担当の職員を配置することで固定化せず、美術や体育先生や保育士、作業療法士がそれぞれの強みを活かして活動を行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	計画に合わせて個別活動と集団活動どちらも行えるよう時間の調整が行われている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	毎朝ミーティングで確認の時間を設定している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	翌日の朝のミーティングで行っている。振り返りやヒヤリハットについては、必要であれば記録も残している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	普段の記録に加え、専門的支援や強度行動障害手順書や振り返りについても記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	行っている。ご家族様からの相談も受け付け、見直し時期を調整している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	状況を良く知る者になるべく複数名で参加し、多角的な視点を伝えられるよう参加前には他の職員との情報共有も行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	ご利用者様の通う園や通う予定の学校なども担当者会議や送迎時の関わりの中で情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	行っている。必要であれば関係機関へ事業所での詳細な様子などもお伝えし、利用者様の将来に向けた方針について提案を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	必要な場面に限り行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	2	状況の改善がなかなか見込まれない場面などにおいて相談先となっていたりしている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	0	事業所で行うイベントに地域のお子様を招いたり、公園や児童館にて遊ぶ機会がある。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	連絡帳やLINE、電話、送迎時の対話を通して状況を共有し、面談など時間をとってお話ができる場面も設定を行っている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	3	面談時やLINEでの相談に応じている。	集団での研修機会や情報提供については時間の確保が課題となり行っていない。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約時にお伝えし、ご不明点があればその都度お伝えさせていただいている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	個別支援計画作成時には、ご家族様との面談を提案し、直接意見を伺うように心掛けている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	行っている。個別支援計画の中で不明点があればその都度お伝えし変更にも応じている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	半年に1回定期的にごこちらから面談の提案を行っている。保護者様から提案があればその都度応じる体制が整っている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	8	イベントの際には保護者様へも参加や送迎をお願いし交流の機を図っている。	父母会や保護者会については時間の設定が難しく、行っていない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	行っている。LINEについては時間の制限なく送っていただいている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0	SNSを使った活動の発信に力を入れ、その日の活動の内容や様子についても写真や動画で見ることが出来るようにしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	職員へは契約時に個人情報の取り扱いについて説明を行い、誓約書を取り交わしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	絵カードや簡単なハンドサインを使用した意思疎通ができる体制を整えている。	絵カードやハンドサインについては事業所内の統一と種類の増加を目指したい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	0	毎年ハロウィンイベントを開催し、地域のお子様を招待している。今年度は200名ほどの来場となった。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	事業所に合わせた内容の物を用意し、研修・訓練を通して職員やご家族様への周知を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	事業所に合わせた内容の物を用意し、研修・訓練を通して職員への周知を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10	0	契約時にアレルギー、服薬、疾患について確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	食物アレルギーのあるお子様へはアレルギー食材の提供や調理レクの参加は行っていない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	安全計画を策定し、計画に沿った訓練や研修を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	日々の連絡帳や月に1度のお便りを通して内容をお伝えしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	毎朝のミーティングにて前日の支援を振り返る時間を設定し、職員間で話し合いを行っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	虐待防止委員会、虐待防止研修を行い、職員間でも支援について振り返る機会を作っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	身体拘束防止研修を通して身体拘束についての理解を深め、抑止に繋げる為の支援について話し合いを行っている。		